

**Subject:** 沖永良部島通信NO50  
**From:** "kenken" <kenken@po3.synapse.ne.jp>  
**Date:** Sun, 12 Jul 2009 15:37:50 +0900  
**To:** 上田 康博 <y.ueda@itipa.co.jp>  
**CC:** 山口 勝政 <yama\_garden@yahoo.co.jp>



沖永良部気紛れ通信 NO. 50  
 2009・7・12 (月)  
**暑中お見舞い申し上げます**

7月も半ばとなりました。夏の暑さは、これからが本番かと思えます。どうぞ、熱中症など、気をつけ、乗り切ってください。

この気紛れ通信は、暫く夏休みになります。気が向きましたら、再開いたします。

**グランドゴルフ**

梅雨前線が何かしてググーッと南下し、朝早くから、ゴロンゴロン激しく吠え立てるように雷を伴い、猛烈な雨を降らせた。我が家の前の道路は、激流状態の川のようなものである。時折小雨状態になるものの、終日降り続き、閉じこもりであった。翌日、雨は上がったが、どんよりと低く雨雲が垂れ込め、鬱陶しい。昼過ぎ、「3時だからね、早めにおいで」と電話があった。例の、老人ホーム予定地での字内グランドゴルフ大会である。前回でお仕舞いかと思っていたが、まだ使えるらしい。

会場に駆けつけると、全員集合し、練習の真っ最中である。今日に限らず、週3回の練習日もしっかりトレーニングを積み重ねているのである。何時もそうだが、その熱心さはとても真似できない。練習したって、上手くなるとはとても思えない、という、僕の傲慢な固定観念が練習を邪魔する。今回は、この土地の持ち主、全国展開のスーパーマーケットの大病院、沖永良部病院の副院長、看護師先生率いるチームも参加する。ジジババばかりの中にあって、現役で看護活躍する若い女性看護師が会場をひと際華やかに彩る感じ。曇り空とはいえ、風のソヨとも吹かない会場は、ジッとしててもジツトリ汗が噴出し、気だるさを倍加する。そんなのに負けないのが、恐るべき老人パワーという奴である。例によって、一打一打に喜びと落胆の歓声やらため息やらが会場を埋める。結果は、何故か我が国頭西部が優勝。僕の成績は？、チームの脚を引っ張らない程度の可も不可も良かボカもない、平凡な結末であった。 09. 7. 4

**グランドゴルフ、パート2**

前日に引き続き、タラソテラピー主催の和泊町内グランドゴルフ大会があった。会場は、タラソテラピーの広場。はっきり言って、やる気全く無し、である。気温は朝早くからグングン上がり、シュワシュワシュワ、若しくはサイサイサイのせみの鳴き声？が蒸し暑さを倍にも3倍にも感じさせる。こんな日に、雲隠れしてくれても良さそうな太陽も、今日は照らしまくってやる、とばかりギンギラギンである。こんな、コンチクショウのとてつもない猛暑を、どうってことないよ、と涼しげな顔で、元気溼刺プレーを続ける元気高齢者パワーに、恐れ入りやした、と内心弱弱しく呟く私でありました。したがって、早く終わってくれと切々と願う僕のスコアは惨憺たる物でして・・・。タラソテラピーの建物の中のプールでは、日曜日ということもあり、大勢の客で混み合い、楽しみに水中バレーボール等している。実に涼しげである。実に羨ましい。出来れば、あの中に、という願いがかなうこと等到底ないわけで。

**梅雨明け**

プレー全て終わって、サッサと帰って、サッサとシャワー浴びて、サッサとクーラーオンにしてサッサと横になって、ボーっとテレビ見てたら、鹿児島地方気象台発表、「本日、奄美地方は梅雨明けしたと見られる。」というではないか。いよいよ、夏本番。暑さとの戦いが始まる。 09. 7. 5

**親子サッカー**

その日の、気だるい午後3時、小学校の校庭で、国頭サッカー少年団の親子サッカーがあった。今年度入団した3、4年生5名と、今日からサッカー始める1年生3名の歓迎も兼ねる。お陰で、僕の指導するBチームは、14名になった。まず、僕の指導する低学年チームと、母親対決。小学生のママが、こんなに若いのかと、改めて、だらしなく高齢化した自分をしっかりと認識させられる。無論、勝負であるから、子供達は勿論、ママ達も目の色変えて真剣である。サッカー経験がないとは言え、ママの蹴るトキックの威力は強烈である。イヤイヤ、何処へ飛んでいくか分からない恐怖もある。怖かったら逃げるしかない。3年のショウマは、至近距離から3度もボディ直撃され、涙堪えて、うずくまる。見ているパパ達は、「ショウマ、泣け、泣け」と囁き立てる。可哀想に。ママ達の情け容赦ない蹴っ飛ばし猛攻に業を煮やし、遂に審判の僕が助っ人に出る。ママ達のキャーキャーブーイングも何のその、可愛いチビ達に、安心と希望と勇気と勝利の喜びを、である。続いて、高学年対父親。サトイモの収穫最盛時季とあって、イレブン揃わず、僕も員数揃えで入った。若いパパと子供達のスピードとパワーとテクニクについていけるわけもなく、殆ど棒立ち状態で、殆どボールに触れずに終わったのは当然ですね。アア、お前は何をしに来たのだと、降り注ぐ日光が私に言う、である。 09. 7. 5

## ガジュマルリーグ 7, 11

梅雨明け宣言から1週間、一滴の雨も降らず、来る日も来る日も、ジリジリ容赦なく照りつける太陽で、島全体がチンされ、茹で上がっている。

今日は、8人制のガジュマルリーグ、2日目、我が国頭Bの相手は、和泊B、C。2試合である。B、Cだったって、相手は3年から5年の混成チームである。

1試合目。対B。取り敢えず、1、2年を控えに、3、4年でチームを編成して臨んだが、相手の速い動きについていけず、滅茶苦茶翻弄され、大量5失点で終わった。

2試合目は、対C。ここで、1年生3名、2、3年生を先発させる。1年生はデビュー戦である。沢山ボールに触っておいで、怖かったら逃げてもいいよ。

しかし、ボールを怖がり、浮き球を、手で払いのけるのは、新人の3年生である。自分の安全は自分で守るを、しっかり実践している。

和泊選手の肩の高さにも満たない1年生チビ3名が、ボールに触れるだびに応援のパパママの拍手と歓声が沸き起こる。

2年のライムは、ボールの動きに関係なく、しきりにママの方を向き、ニコニコである。ライムママ、大声出して激励する。

同じく2年のスグル、ただ直向きに、下向きに、ドリブルを試みるが、なかなか通用しない。それでも諦めず、ポジション関係なく執拗にボールに絡もうとする。

という訳で、全くサッカーの体を成していない、哀れな展開の結末は、バーゲンセール的、出血大サービスの、10失点。

さすがに3年生はションボリ、であったが、1年生3名は、滴る汗にも関わらず、実にさわやかな満足顔でありました。

が、記録的大敗を喫したBチームの老コーチは、内心ジクジク忸怩たる思いで、しょ気返っていたんだよ。

ま、次回の練習内容を吟味し、少しはまともなサッカーが出来るよう、工夫するしかない。